愛着のあるみち

市内には『愛称』で呼ばれ、皆さんから親しみを持たれている道路が数多くあります。

多くの市民の皆さんが関わり、それぞれに物語があるから愛着が生まれるのかもしれません。

皆さんの日常に寄り添い、親しまれている道路です。

学園通り

JR沼津駅の東側にある三つ目ガードから国道1号の交差点までの道路を、市民の皆さんは「学園通り」と呼んでいます。道路沿いに小学校から高校まで数多くの学校があり、学生の利用が多いことから、昭和59年に公募により、学園通りと愛称がつけられました。

学園通りは、沼津インターから伊豆方面に抜ける幹線道路としての役割や市北部の住宅地と中心市街地を結ぶ生活道路としての役割も担っています。

沿道には、学校のほかにも会社やお店などが立ち並び、住んでいる地域や世代を問わず、多くの人が様々な交通手段で利用しています。そのため、車道だけではなく、歩道についても歩行者や自転車利用者が安心して通れるよう、安全の確保に向けた整備が進められています。

学園通りを利用する高校生たちのマナー向上を呼びかけている加藤学園高等学校の新保さんは「学園通りは市内にあるほとんどの高校の生徒が利用しています。通学時は生徒だけでなく通勤中の人など多くの人が使っていますが、歩道も広く、自転車が通行する部分も設けられていて、とても利用しやすいです。毎日使っているから愛着が湧き、友達との通学時間を楽しく過ごしています」と話してくれました。

学生の笑顔が溢れるこの道路は、まさに学園通りと言えます。

沼津市高校生自転車マナー向上委員会委員
加藤学園高等学校２年生　新保敦史さん

のぼりみち通り

西高入口交差点(市道町)から北へ進む道路を「のぼりみち通り」と呼んでいます。

江戸時代、諸大名が道中安全を祈願したという由緒があり、地域から厚く信仰されている丸子神社へ続く道に、市が開かれ、のぼり旗が立ち並んだことに由来し、北へのぼるという意味も込められ、昭和58年に地元の人に馴染み深い愛称がつけられました。

幟道ガードと交差する
のぼりみち通り(双葉町)

憩いのある空間

ひとくちに道路といっても自動車の通行がなく、歩行者や自転車利用者のために造られた「みち」もあります。

ゆっくりと移動しながら、まちの景観を楽しんだり、植栽や草花などから四季を感じることができます。

利用する皆さんに、癒しややすらぎを与えてくれる空間です。

蛇松緑道

白銀町から狩野川河口の蛇松町にかけての約1.8㎞、面積にして18,200㎡を、桜や紫陽花、藤など、約120種14,000本の四季の植栽で彩られた遊歩道があります。

明治21年に沼津駅と沼津港を結び開業し、昭和49年に廃線となった「蛇松線」の軌道跡に整備されたのが蛇松緑道です。

当時の港に生えていた、大蛇が寝た形に似ている老松につけられた名前「蛇松」が由来とされる蛇松線は、東海道本線建設のために沼津港から敷かれた専用貨物線でした。東海道本線が開通すると港と駅を結ぶ貨物線として住宅地にほど近いところを走り、市民の皆さんから愛着を持たれていました。廃線後は、住民の意向により現在の緑道が整備されています。

緑道の周辺には由緒あるお寺が多く、静かな住宅地に囲まれています。お花見が楽しめる桜並木や、植栽の手入れが行き届いた庭園のような景観は、訪れた人たちに居心地の良さを与えてくれます。

公園としての機能も持つ蛇松緑道は、安全に通行できると同時に、季節を感じやすらぎを与えてくれる市民に愛される憩いのある空間です。

手入れが行き届いた緑道にはベンチや水飲み場などが整備され、贅沢な時間を過ごすことができます

Proud NUMAZU

そこに住む人とともに

道路は、人やものを移動させるための交通空間であるとともに、災害時には避難路や延焼を食い止める防火帯の役割を担っています。さらに、電線、ガス・水道管などの私たちの生活に欠かせない設備を収容するための施設でもあります。

本市では日本の大動脈であり、首都圏などに繋がる東名高速道路や新東名高速道路などへのアクセス強化を図るとともに、県東部地域がさらなる発展を遂げるよう周辺市町と連携を図りながら道路交通網の整備を進めています。

市内においては、各地域と鉄道駅や高速道路のインターチェンジ、沼津港等の拠点を結ぶ交通網の整備に取り組んでいます。また、誰もが暮らしやすく、歩きながらまちを楽しみ、居心地の良さを感じるまちづくりのために、市民の皆さんの日常生活における安全性の向上や、来訪者にやさしい交通環境づくりにも取り組んでいます。

長い歴史の中で、その形態や役割は変わりましたが、いつの時代もそこに住む人の日常に欠かせない「みち」。そこには、沼津市ならではの文化や産業があり、住む人の安全や暮らしやすさを考え、整備を進めているからこそ、まちとしての魅力が生まれるのではないでしょうか。